住みよいまちづくりのために
第四回「世論調査」まとまる

市では今年九月、市内に住む二十歳以上の男女千四百六十五人(回収率九六・四%)を無作為抽出して「第四回世論調査」を実施しました。この調査は、住みよいまちづくりを進めるため、皆さんが市の現状について、そして将来についてどのようにお考えになっているかを知るために実施しているものです。今年は「都市環境」「交通体系」など五項目、二十六の設問にお答えいただきました。市では、今後、この結果を市の基本構想の資料や、いろいろな分野の基礎資料として活用させていただきます。

テーマⅠ〈都市環境〉

Q1・大館市の都市環境をどう思いますか

① すぐれている……1.2%
② 比較的すぐれている……4.9%
③ 普通である……36.3%
④ 劣っている……49.8%
⑤ 非常に劣っている……5.8%
⑥ 無回答……2.0%

以下、「スポーツや娯楽施設がない」「交通の便が悪い」「古きよきものがない」などとなっています。

地区別にみて特徴的なことは、「駅前周辺の都市整備…」については、長木川以北、釈迦内、花矢地区で特に多く、逆に十二所、二井田など新市内の残りの地区では「雇用の場が少ない」がトップになっています。大館地区では長木川を挟んで北と南で多少異なり、以南の地区では「駅前…」よりむしろ「下水道の完備」や「商店街に活気…」を望む声が多くなっています。一方自然環境や街路樹についての要望はわずかでした。

Q2・「劣っている」「非常に劣っている」と答えた方(814人)に、その理由をお聞きします。

(一人三つまで)

① 駅前周辺の都市整備が遅れている 336人
② 雇用の場が少ない 286人
③ 商店街に活気がない 258人
④ 下水道が完備してない 237人
⑤ 大学等の文教施設が乏しい 205人
⑥ 生活道路の整備が遅れている 181人
⑦ 文化的魅力に乏しい 176人
⑧ 自動車が多くて危険だし、交通渋滞が多い 157人
⑨ 公園等憩いの場がない 146人
⑩ 住宅地が整備されていない 95人

Q3・魅力ある住みよい都市にするためのポイントは?

① 道路、住宅、下水道など生活環境の整備 55%
② 産業の振興 51%
③ 福祉対策の拡充 25%
④ 教育文化施設の充実 20%
⑤ 住民の連帯感づくり 17%

①の「道路…整備」は大館、下川沿、真中地区でトップ。他の地区では②の「産業…」をトップにあげています。いずれにしても、前問からもわかる通り、当市にとって住みよいまち、発展するまちとなるためには、生活環境の整備とともに産業の振興による若年から中高年層にいたるまでの広い雇用、就労の場の確保が最大の課題であると考える市民が圧倒的に多いことがわかります。

Q4・過去の調べでは「地域で整備してほしいもの」のトップに〝子供の遊び場〟があげられています。設置する方法は?

① 長期にわたっても市が設置すべきである 57%
② 住民の所有する土地を無償で借地し、遊具等は市が設置して管理 18%
③ 運営は地域住民で 13%
③ 地区住民が設置する

Q5・公共下水道に市は未着手ですがこれについてどうお考えですか

① 家庭雑排水が河川や農業用水の主な汚濁原因となっている。公共下水道の早期着工を 63%
② 地区や町内ごとに側溝等の清掃を定期的に行う 18%
③ 公共下水道建設には莫大な事業費を要するので、当面は家庭雑排水の規制を強化する 11%

〈地区別回収状況〉

地区名	配布数	回収数	回収率
大館	648	635	98.0%
釈迦内	210	181	86.2
長木	107	106	99.1
上川沿	60	59	98.3
下川沿	102	101	99.0
真中	41	40	97.6
二井田	62	61	98.4
十二所	110	104	94.5
花矢	180	178	98.9
計	1,520	1,465	96.4

市長の対話ノート

「考える生活」

No. 78

伝統工芸指定を受けた「曲げわっぱ」の活路開拓ビジョン実現化事業をご指導いただいています東北工大の山下教授が、「大館の市民性は、物事にこだわらない風格がある。しかし、そこには創造は生れない」といわれました。

ほめられているのか、けなされているのかたじろぎましたが、少なくとも前者でない事だけは確かなようです。

工芸品は、創意工夫と技術を駆使して、いかに付加価値を高めるかにありますし、そこにこそ活路があるはずです。伝統工芸品という定まったデザインでの工作技術が優れていても、創作が伴わなければ消費者のニーズには合わないことになり、活路どころか、停滞と後退の道をたどりかねないのではないでしょうか。

ひとり「曲げわっぱ」に関してだけではありません。日常生活の中で「なぜ」という疑問と注意、「どうすれば」という志向と解決力をもつ習慣を養わなければ、現代社会とかけ離れてしまうことになりかねません。「考える生活」「生活の中での思考力」、これは一人の努力だけでなく、社会教育として、そして風土として作りあげて行かなければなりません。

地場産業の振興といっても、直接的なものだけでなく、こういう側面もあるのではないでしょうか。

畠山健治郎